

平成22年 6月 14日現在

研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2008～2009
 課題番号：20730362
 研究課題名（和文） 戦時体制下の日本主義的學生思想運動に関する基礎的研究
 研究課題名（英文） Fundamental Study on Student Japanism Thought Movement under the
 Wartime Regime
 研究代表者
 井上 義和（INOUE YOSHIKAZU）
 関西国際大学・人間科学部・准教授
 研究者番号：10324592

研究成果の概要（和文）：

昭和10年代の日本主義的な学生思想運動（日本学生協会・精神科学研究所）について、書籍・パンフレット・内部資料を含む基礎的な資料集を編集し解題を付けて刊行した。それらの団体が戦時体制に対して展開した批判的な言論活動の内容を分析し、それを可能にした歴史的社会的条件と、日本型保守主義の可能性について考察した。その成果は『日本主義と東京大学』（柏書房）として刊行された。

研究成果の概要（英文）：

I edited a collection of fundamental documents including books, pamphlets and internal information about student thought movement of the Japanism (Japanese nationalism) of Showa 10's; Nihon-gakusei-kyokai (Association of Japanese student) and Seishin-bunka-kenkyusyo (Moral culture Institute).

I analyzed contents of the critical speech activity that those groups presented for a wartime regime and considered possibility of a historical and social condition that enable it and the Japan type conservatism.

The result was published as "Japanism and Tokyo University" by Kashiwashobo.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|---------|---------|-----------|
| 2008年度 | 400,000 | 120,000 | 520,000 |
| 2009年度 | 400,000 | 120,000 | 520,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |

研究分野：教育社会学、歴史社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：歴史社会学、政治思想史、高等教育、学生思想運動、戦時体制、昭和10年代

1. 研究開始当初の背景

(1) 2つの共同研究からの発展

本研究は研究分担者として参画した2つ

の共同研究に由来する。1つは平成15～17年度サントリー文化財団特別助成研究「大学危機の時代におけるアカデミズムとジャー

ナリズム」(研究代表者：竹内洋)であり、その成果である『蓑田胸喜全集』(全7巻・総6568頁、柏書房、2004)の編集・解題および竹内洋・佐藤卓己編『日本主義的教養の時代—大学批判の古層』(柏書房、2006)の分担執筆に参加した。もう1つは平成17～19年度科研費補助金基盤研究(B)「大学批判の歴史社会学—知識人的公共圏の成立と変容」(研究代表者：稲垣恭子)であり、その成果の一部である『日本主義的學生思想運動資料集成I 雑誌篇《国民文化研究会所蔵》『学生生活』『新指導者』[復刻版]』(全9巻・総約4500頁、柏書房、2007)の企画から解題までを担当した。本研究はこうした共同研究の成果と問題意識を発展させるものである。

(2) 1つ目の逆説(教養主義*にもかかわらず*日本主義)

学歴エリート文化として大正期に開花した日本型教養主義がマルクス主義の受け皿となるプロセスについては、筒井清忠や竹内洋の歴史社会学的研究によってほぼ定説となっている。本研究はこの「教養主義=左傾培養器」説を右側から補完する。

(3) 2つ目の逆説(日本主義*にもかかわらず*戦時体制批判)

日本ファシズムの完成期に伝統的な日本主義者は用済みとなり東條内閣と対立するに至るプロセスについては、丸山眞男や伊藤隆なども言及してはいるが、特定グループの思想や実践の実態把握にまで至っておらず、政治史研究ではいまだ検証に値する課題である。ましてや教育史研究においては、そもそも天皇制教育のイデオロギーの中核をなす日本主義から戦時体制批判の論理が導き出される可能性を想像することからして困難だった。

2. 研究の目的

(1) 研究目的

昭和10年代の高等教育機関において日本主義的教養が成立する社会的条件と、それが戦時体制下で示した歴史的帰結について解明することである。

(2) 研究対象

東大精神科学研究会(1938)および東大文化科学研究会(同)、それらが発展してできた全国組織・日本学生協会(1940)、民間組織・精神科学研究所(1941)である。この団体は戦時体制下に勢力を拡大し、会員数は最大で4000名を超えたが、新体制運動や戦争指導理念に対して批判的な言論活動を展開し、東條内閣のもと弾圧・検挙され解散(1943)に至った。

(3) 分析課題

学歴エリート養成機関に日本主義的教養が受容されたのは何故か、そして日本主義的教養を究めようとした彼らが戦時体制を批判したのは何故か、という2つの「なぜ？」

に実証的に取り組む。前者は、「旧制高校的な教養主義は右傾培養器としても機能した」

(教養主義*にもかかわらず*日本主義)という逆説的事実をふまえ、「教養主義*ゆえの*日本主義」が成立するための条件を解明することである。後者は、「日本主義グループから戦時体制批判の言論活動が生まれた」

(日本主義*にもかかわらず*戦時体制批判)という逆説的事実をふまえ、「日本主義*ゆえの*戦時体制批判」が成立するための条件を解明することである。

3. 研究の方法

(1) 資料編

日本学生協会・精神科学研究所が発行した書籍・パンフレット等を戦後の後継団体である社団法人国民文化研究会の協力を得ながら収集し、解題を付した復刻資料集を柏書房から刊行する。それを補完するために、新聞記事や帝国議会議事録、取締当局の調査報告書など外部の資料も収集する。

(2) 分析編

基礎資料の整備作業をふまえて、①教養主義に内在する右傾化の論理的契機とその発現を促した社会的条件、②日本主義に内在する戦時体制批判の論理的契機とその発現を促した社会的条件、を分析する。それを補完するために、当時の関係者へのインタビュー調査、および資料集未収録の手記等の一次史料の探索を行う。

4. 研究成果

(1) 平成20(2008)年度の成果

① 基礎資料の復刻解題—資料集成の刊行

日本学生協会・精神科学研究所が発行した書籍・パンフレット等を収集し、成果として、資料解題を付けて柏書房から打越孝明・井上義和・占部賢志『日本主義的學生思想運動資料集成II 書籍・パンフレット篇』全10巻(総5,240頁)を刊行した。

内容：日本主義的教養の徹底が戦時体制批判に行き着くプロセスを克明に記録した日本学生協会・精神科学研究所の刊行物を復刻、大学史、昭和前期思想研究の空白を埋める。320点にのぼる貴重な書籍・パンフレットを網羅するとともに、附録には当時の合宿風景を記録したトーキー映画『文化の戦士』、日刊紙『日本太郎』を収録。

② 先行研究の整理と資料の分析—政治史の蓄積と復刻資料をふまえた実証分析

成果として柏書房から井上義和『日本主義と東京大学—昭和期學生思想運動の系譜』(249頁)を刊行した。

内容：昭和10年代、教養ある学生のエリートが担い手となり、「大学の自治」をめぐる攻防を当局と繰り返した日本主義學生運動。その思想戦の系譜を明らかにし、戦時期

保守主義の再評価を試みる。

(2)平成 21(2009)年度の成果

前年度の成果である『日本主義的學生思想運動資料集成Ⅱ 書籍・パンフレット篇』を『同資料集成Ⅰ 雑誌篇』と併せて読み込み、昭和 15～18 年にかけての日本學生協会・精神科学研究所の言論活動の実態把握に努めた。

これにより、日本政治史および高等教育史の領域において資料的制約のため研究が手薄だった昭和十年代の日本主義的學生思想運動について、運動実態のみならず思想言論にまで踏み込んだ解明が可能になった。すなわち日本主義的教養の徹底がどのように当時の新体制および戦時体制のラディカルな批判たりえたのか、政治経済教育の各領域でその内在的な論理が明らかになった。これは前年度の成果である『日本主義と東京大学—昭和期學生思想運動の系譜』で提示していた仮説を実証するものである。

平成 21 年度の作業の成果として、『日本史研究』小特集「高等教育史の可能性」(平成 22 年 12 月号)への論文の執筆準備を進めている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 2 件)

井上義和、『日本主義と東京大学』, 柏書房, 2008, 全 252 頁

打越孝明, 井上義和, 占部賢志, 『日本主義的學生思想運動資料集成Ⅱ 書籍・パンフレット篇』全 10 巻, 柏書房, 2008, 第 4 章「精神科学研究所の事業——第七～九巻解題」89～121 頁を担当

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上 義和 (INOUE YOSHIKAZU)

関西国際大学・人間科学部・准教授

研究者番号: 10324592

(2) 研究協力者

打越 孝明 (UCHIKOSHI TAKAAKI)

明治神宮国際神道文化研究所主任研究員

占部 賢志 (URABE KENSHI)

福岡県立太宰府高等学校教諭

山崎 孝泰 (YAMAZAKI TAKAYASU)

柏書房編集部